

2022年3月期 第3四半期決算概要



日進工具株式会社

2022年1月31日
(証券コード6157)

目次

2022年3月期3Qの業績	P. 3 . . .	第3四半期決算（累計）の概要
	P. 4 . . .	営業利益の増益要因
	P. 5 . . .	損益計算書サマリー
	P. 6 . . .	貸借対照表サマリー
	P. 7 . . .	四半期業績推移
<hr/>		
2022年3月期の業績予想	P. 14 . . .	業績予想
	P. 15 . . .	下期業績予想と進捗率
	P. 16 . . .	配当予想
<hr/>		
参考資料	P. 18 . . .	過去5年間の業績と主要データ推移
	P. 19 . . .	投資指標
	P. 20 . . .	株価推移とバリュエーション
	P. 21 . . .	I R 情報サイトのご案内

2022年3月期 第3四半期の業績



第3四半期決算（累計）の概要

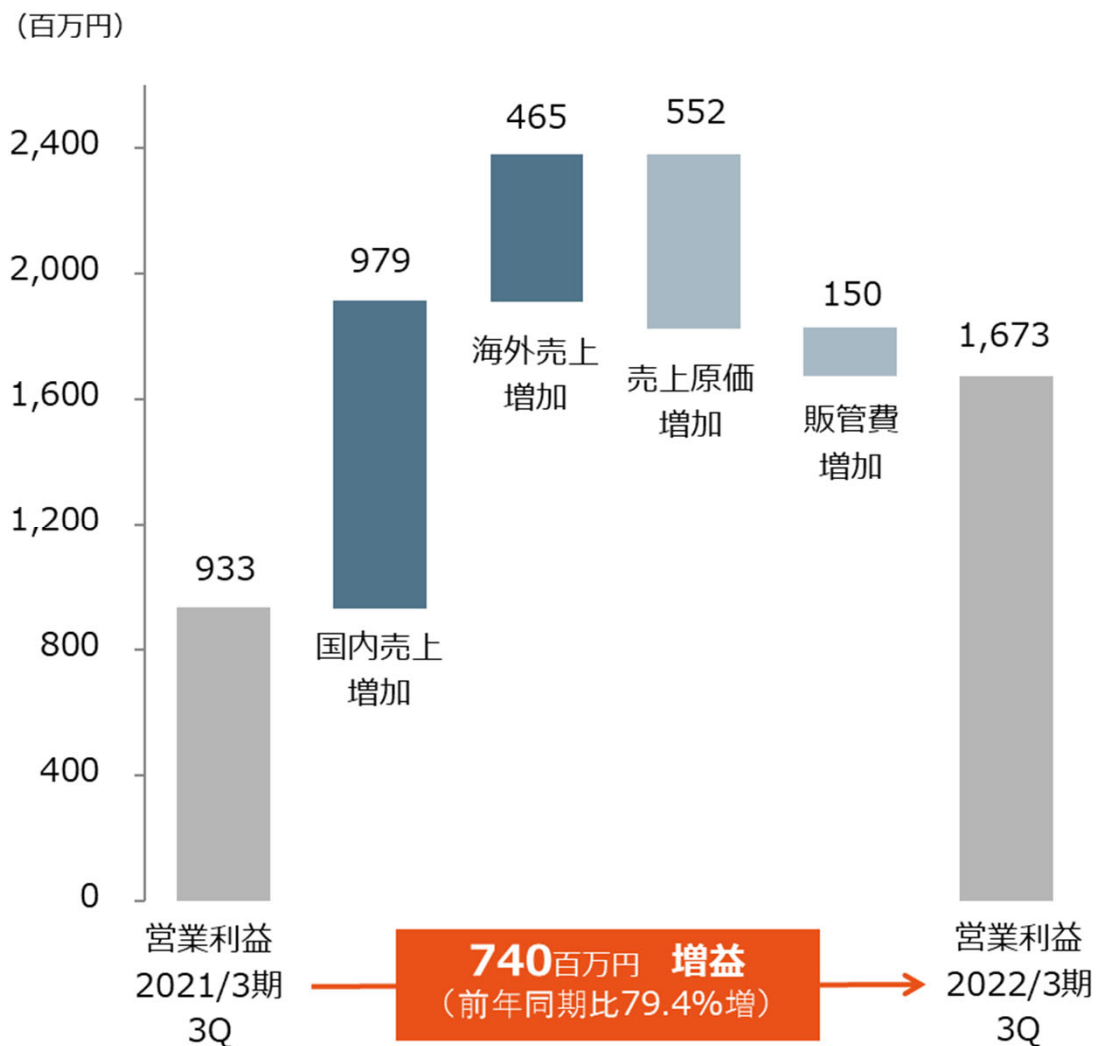
回復傾向が継続

通期予想を上方修正

(単位：百万円)	2021年3月期 3Q累計	2022年3月期 3Q累計	2022年3月期 通期予想	進捗率
売上高	5,835	7,279	9,520	76.5%
前年同期比	-20.3%	+24.8%	+17.5%	
営業利益	933	1,673	2,150	77.8%
前年同期比	-49.0%	+79.4%	+42.1%	
経常利益	1,123	1,707	2,190	78.0%
前年同期比	-38.7%	+52.0%	+27.9%	
四半期純利益	760	1,181	1,530	77.2%
前年同期比	-38.0%	+55.4%	+26.0%	

- 世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響があった前年同期からの回復傾向が継続。特に半導体関連が活況となっており、半導体製造装置等の機械関連も好調。当四半期累計の連結売上高は7,279百万円と、前年同期比24.8%の増加となり、コロナ禍前である前々期とほぼ同水準まで回復。
- 連結経常利益は1,707百万円と、同52.0%の増加。
- 売上高経常利益率は23.5%となり、同4.2ポイント上回った。
- 本日公表した修正業績予想に対する進捗率は、売上高が76.5%、経常利益は78.0%となっている。

営業利益の増益要因



- 売上高は国内が前年同期比979百万円、24.4%の増加、海外が同465百万円、同25.6%の増加となり、売上高全体では1,444百万円、同24.8%増加した。
- 売上原価は同552百万円、18.8%の増加と、売上高の増加率を下回った。前年度から注力してきた製造現場での強い体質づくりが奏功、原価低減につながっており、売上総利益率は51.9%と、前年同期比2.4ポイント上昇した。
- 販管費は賞与引当金の増加等から人件費が前年同期比11.3%増加、また販売費も展示会費や広告宣伝費が増加に転じたものの、前期に不動産取得税が発生していたこともあり人件費を除く販管費は同2.9%の増加に止まり、全体では150百万円、7.7%の増加となった。
- これらの結果、営業利益は同740百万円、79.4%増加の1,673百万円、売上高営業利益率は23.0%と前年同期の水準を7.0ポイント上回った。

損益計算書サマリー

(単位：百万円)	2021年3月期 3Q累計	2022年3月期 3Q累計	前年同期比 増減率
売上高	5,835	7,279	+24.8%
売上総利益 対売上高比率	2,889 49.5%	3,780 51.9%	+30.8%
販管費 対売上高比率	1,956 33.5%	2,107 28.9%	+7.7%
営業利益 対売上高比率	933 16.0%	1,673 23.0%	+79.4%
経常利益 対売上高比率	1,123 19.3%	1,707 23.5%	+52.0%
四半期純利益 対売上高比率	760 13.0%	1,181 16.2%	+55.4%
設備投資額	200	287	+43.4%
減価償却費	527	507	-3.8%
従業員数（人）	347	352	+1.4%

- 売上高は7,279百万円と前年同期比24.8%の増加。半導体や電子部品関連の需要が旺盛であり、半導体製造装置関連も好調を維持した一方、自動車関連は半導体や部品供給停滞の影響を受け、低調な推移となった。
- 売上総利益は3,780百万円と同30.8%増加。原価低減により売上原価が同552百万円の増加に止まった結果、売上総利益率は51.9%と同2.4ポイント上昇。
- 販管費は人件費と販売費ともに増加し、全体で同7.7%増加したものの売上高の増加が大きく、売上高販管費比率は28.9%と同4.6ポイント低下。
- これらにより、営業利益は同79.4%増の1,673百万円、売上高営業利益率は23.0%と、同7.0ポイント上昇。
- 設備投資額は、同43.4%増の287百万円となった。前期に機械設備への投資をやや抑えたことから、減価償却費は同3.8%の減少となった。 5

貸借対照表サマリー

(単位：百万円)	2021年 3月期末	構成比	2022年 3月期3Q末	構成比	前期末比
(資産の部)					
I 流動資産	10,895	64.3%	11,575	66.5%	+6.2%
現金及び預金	7,674	45.3%	8,377	48.1%	+9.2%
受取手形及び売掛金	1,312	7.7%	1,332	7.7%	+1.6%
棚卸資産	1,758	10.4%	1,781	10.2%	+1.3%
II 固定資産	6,040	35.7%	5,840	33.5%	-3.3%
有形固定資産	5,477	32.3%	5,271	30.3%	-3.7%
無形固定資産	34	0.2%	34	0.2%	-0.0%
投資その他の資産	529	3.1%	533	3.1%	+0.9%
資産合計	16,936	100.0%	17,415	100.0%	+2.8%
(負債の部)					
I 流動負債	1,385	8.2%	1,270	7.3%	-8.3%
買掛金	220	1.3%	249	1.4%	+13.0%
II 固定負債	224	1.3%	224	1.3%	-
負債合計	1,609	9.5%	1,495	8.6%	-7.1%
(純資産の部)					
自己資本合計	15,142	89.4%	15,704	90.2%	+3.7%
純資産合計	15,326	90.5%	15,919	91.4%	+3.9%
負債・純資産合計	16,936	100.0%	17,415	100.0%	+2.8%

流動資産

業績回復に伴う現金及び預金の増加等により、前期末比6.2%増加。

固定資産

大きな設備投資も無く減価償却費が上回り、同3.3%減少。

負債

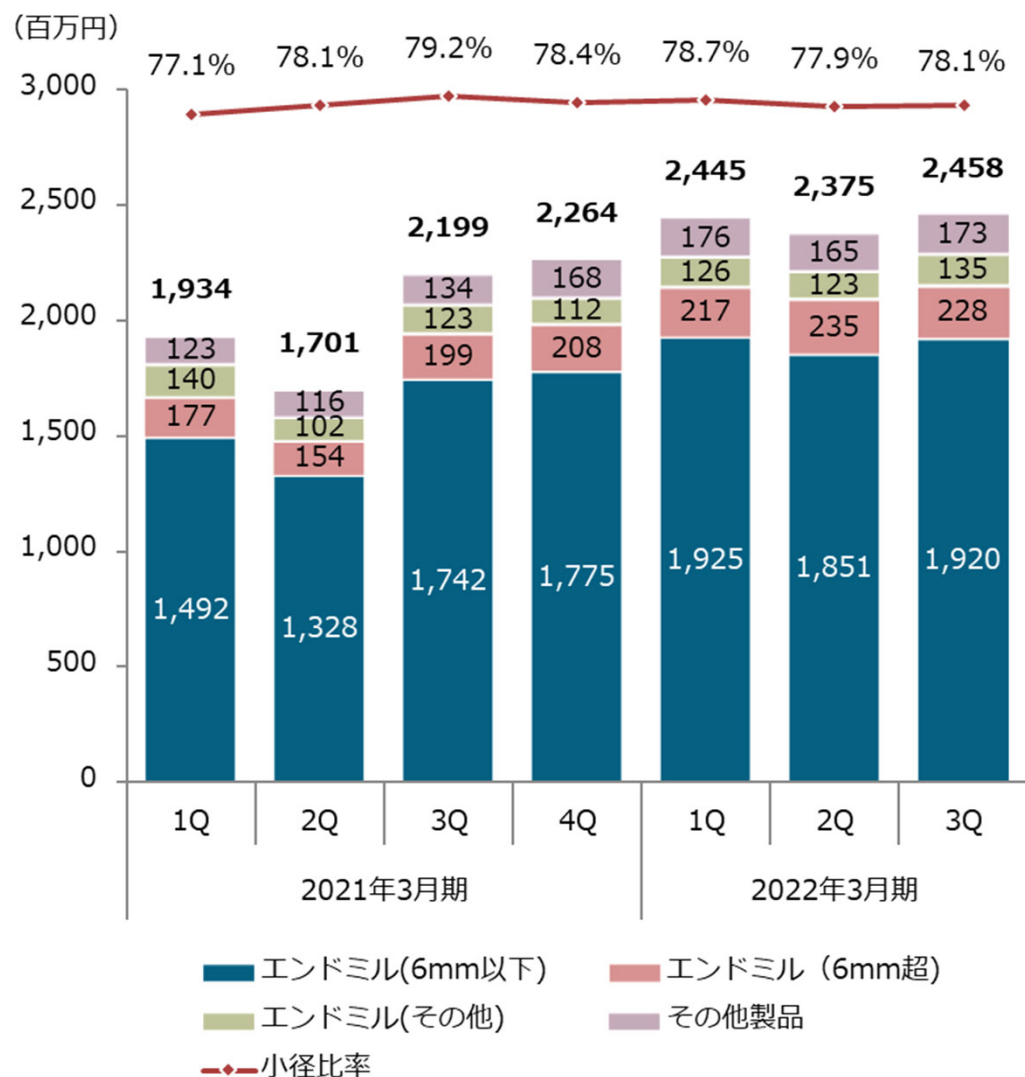
未払法人税等の増加及び賞与引当金の減少等により同7.1%の減少。

純資産

利益剰余金の増加等から、同3.9%増加。自己資本比率は90.2%と0.8ポイント上昇。

四半期業績推移（売上高の推移①） 製品別

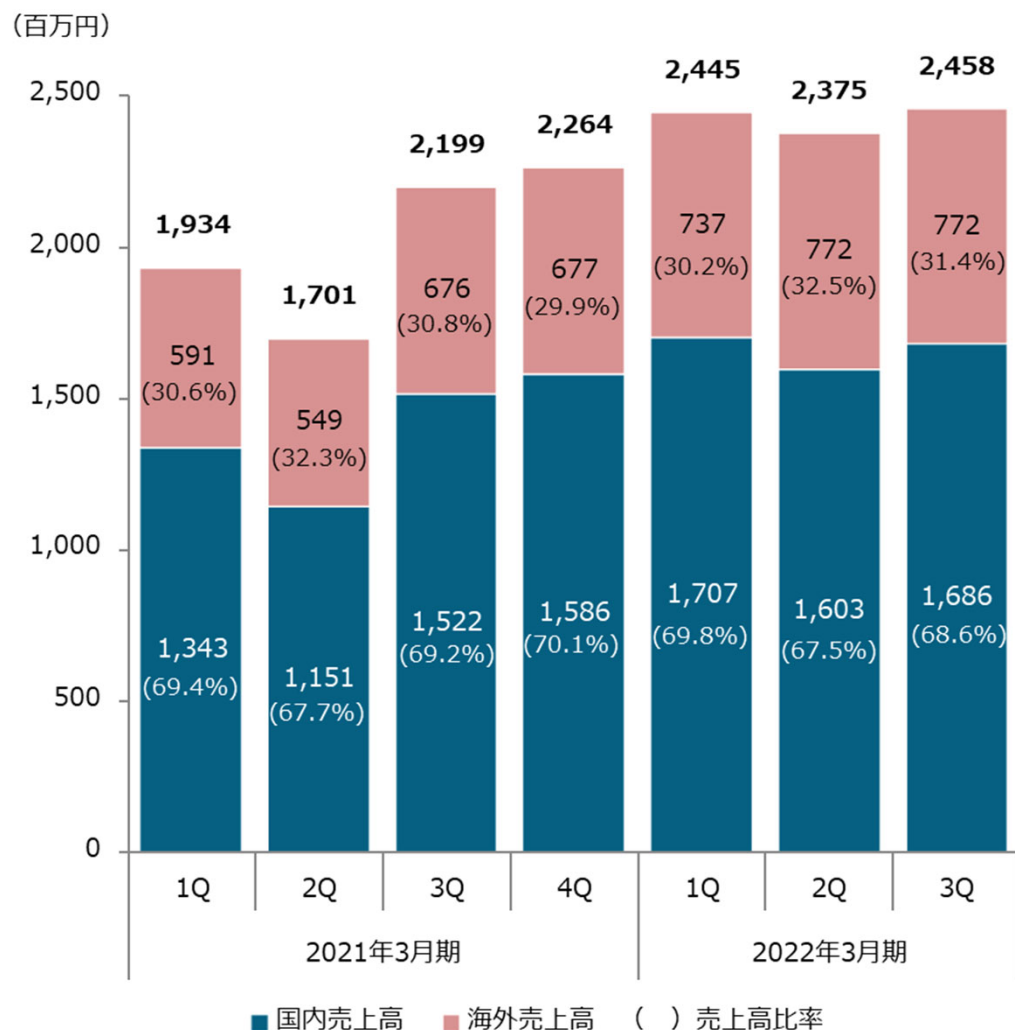
製品別売上高と小径比率の推移



- 電子部品・半導体関連は、IT機器や産業機械向け等の需要が途切れず、活況が継続し、半導体製造装置関連も好調に推移した。一方、自動車関連は半導体や部品不足の影響から各社減産を強いられる状況となった。その結果、当四半期売上高は2,458百万円と前年同期比では11.8%増加、前四半期比では3.5%増加した。
- 製品別では、主力のエンドミル（6mm以下）が前年同期比10.3%の増加、エンドミル（6mm超）も同14.8%増加、ユーザーの独自仕様となる特殊品を中心としたエンドミル（その他）は同9.7%増加した。工具ケース等のその他製品も、同29.0%の増加となった。小径以外の工具の伸びが大きかったため、小径比率は78.1%と同1.1ポイント低下した。

四半期業績推移（売上高の推移②） 国内・海外

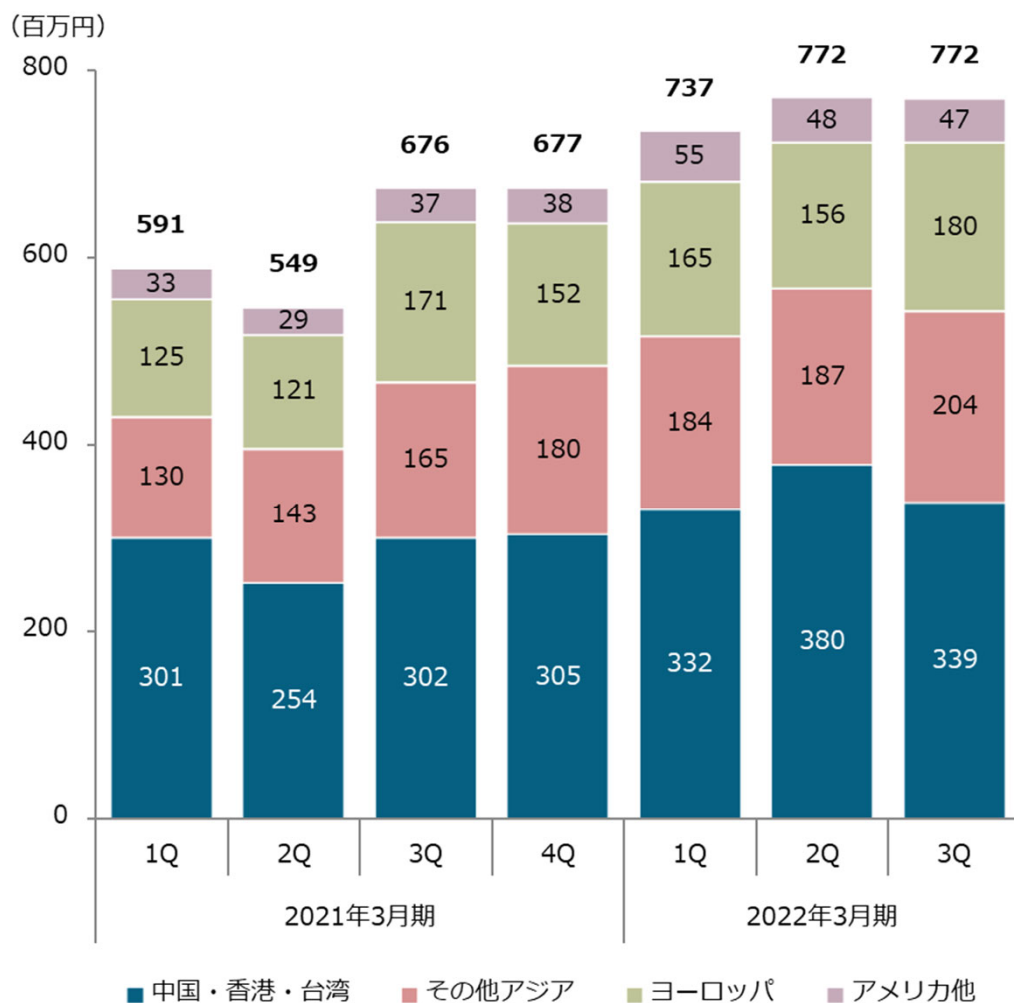
国内・海外売上高の推移



- 国内売上高は前年同期比では163百万円、10.7%増加し1,686百万円、海外売上高は同95百万円、14.1%増加し772百万円であった。前年度下期以降の回復傾向が継続。
- 海外売上高は、地域によってコロナ禍からの回復パターンにバラつきがあるが、全体では緩やかな回復傾向が続き、前四半期比横ばい、海外売上高比率は前四半期比1.1ポイント低下し31.4%。
- 海外売上比率は10年前が20%弱、5年前でも20%台前半であったが、2019年の7-9月期に中国向けの増加等から34.3%と30%を超え、以後は30%前後での推移が続いている。

四半期業績推移（売上高の推移③） 海外地域別

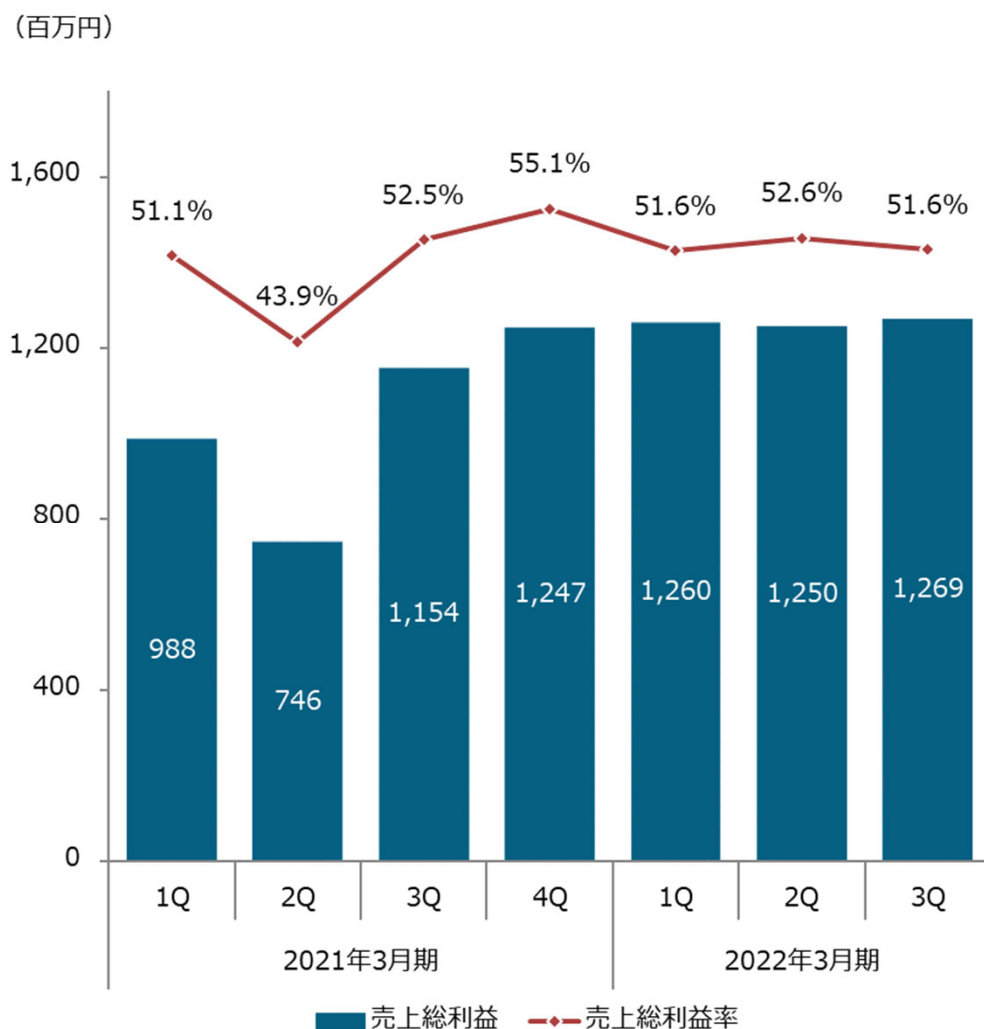
海外地域別売上高の推移



- 中国・香港・台湾は前年同期比12.3%増加の339百万円。日進工具香港の連結に絡み当四半期の中国向けの数字は7-9月分。新型コロナウイルスによる影響からの回復により前年同期比プラスとなったが、スマートフォン向け需要の増加等で好調だった前四半期比では10.9%の減少。
- その他アジアも現地ユーザーの工場稼働率が改善してきており前年同期比23.8%増加の204百万円。
- ヨーロッパは自動車関連の回復が遅れているものの、一部高付加価値部品メーカーの需要は伸びており、同5.5%増加の180百万円となり、前四半期比でも15.9%増加と堅調に推移した。
- アメリカ他は医療関係の受注が増加していることもあり前年同期比25.1%増加の47百万円。今後、新規設立した米国子会社を中心に販売の拡大を狙う。

四半期業績推移（売上総利益の推移）

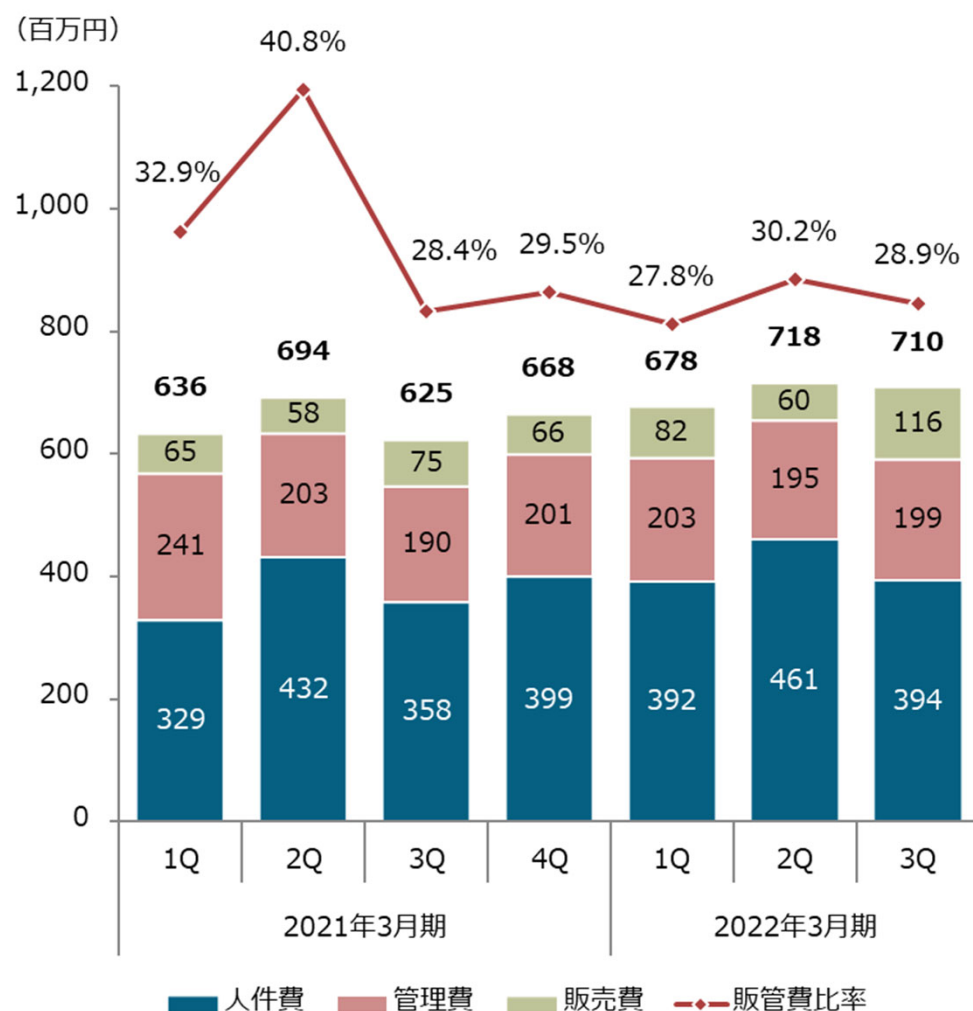
売上総利益と売上総利益率の推移



- 売上高の回復に伴い生産量を引き上げたことから、材料費は前年同期比34.3%、外注加工費は同84.9%とそれぞれ大きく増加した。労務費や製造経費は同13.4%、同24.3%と、生産量が増加する中でも増加幅の抑制に成功。
- 前年度から継続している製造現場の原価低減の施策が奏功し製造原価は抑えられたが、在庫評価や製品ミックスの影響から売上総利益は同10.0%増加の1,269百万円、売上総利益率は51.6%と同0.9ポイント低下となった。

四半期業績推移（販管費の推移）

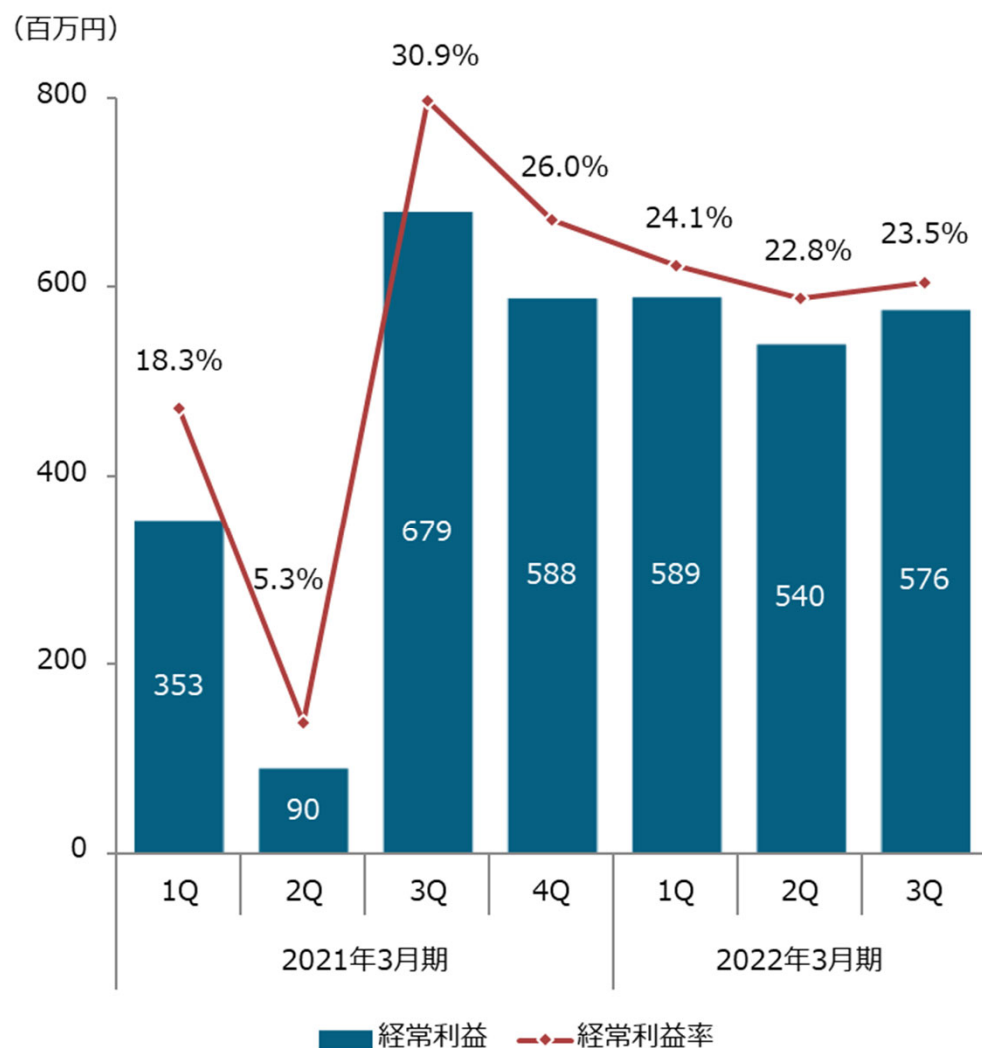
販管費と販管費比率の推移



- 販売費は、行動制限が緩和され、営業経費がやや増加したのに加え、展示会出展や総合カタログの制作により展示会費や広告宣伝費が嵩んだことから、前年同期比53.9%増加の116百万円となった。
- 人件費は、業績の回復に伴う賞与や賞与引当金の増加等から同9.8%増加の394百万円。
- 販管費全体では同13.6%増加の710百万円となり、売上高の増加率を上回ったため、売上高販管費比率は28.9%と同0.5ポイント上昇した。

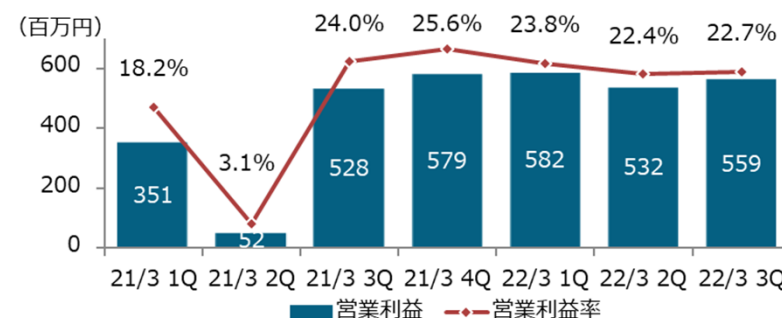
四半期業績推移（経常利益の推移）

経常利益と売上高経常利益率の推移



- 売上高の増加に伴い、営業利益は前年同期比559百万円、5.7%増加したものの、販管費が増加したことから売上高営業利益率は1.3ポイント低下。
- 営業外損益では、企業立地奨励金等の助成金収入19百万円が発生したが、前年同期に計上した雇用調整助成金や生命保険の解約等による営業外収益が多額だったため、経常利益は576百万円と同15.1%の減少。
- 売上高経常利益率は23.5%と前年同期と比較して7.4ポイント低下したが、前四半期と比べると助成金収入の増加により0.7ポイント上昇した。

(参考) 営業利益と売上高営業利益率の推移



2022年3月期の業績予想



業績予想

(単位：百万円)	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期予想	前期比 増減率
売上高	8,100	9,520	+17.5%
営業利益	1,512	2,150	+42.1%
経常利益	1,712	2,190	+27.9%
当期純利益	1,214	1,530	+26.0%
設備投資額	462	589	+27.6%
減価償却費	707	713	+0.9%
EPS (円)	48.55	61.18	+26.0%
1株当たり配当金 (円)	17.50	22.50	+28.6%

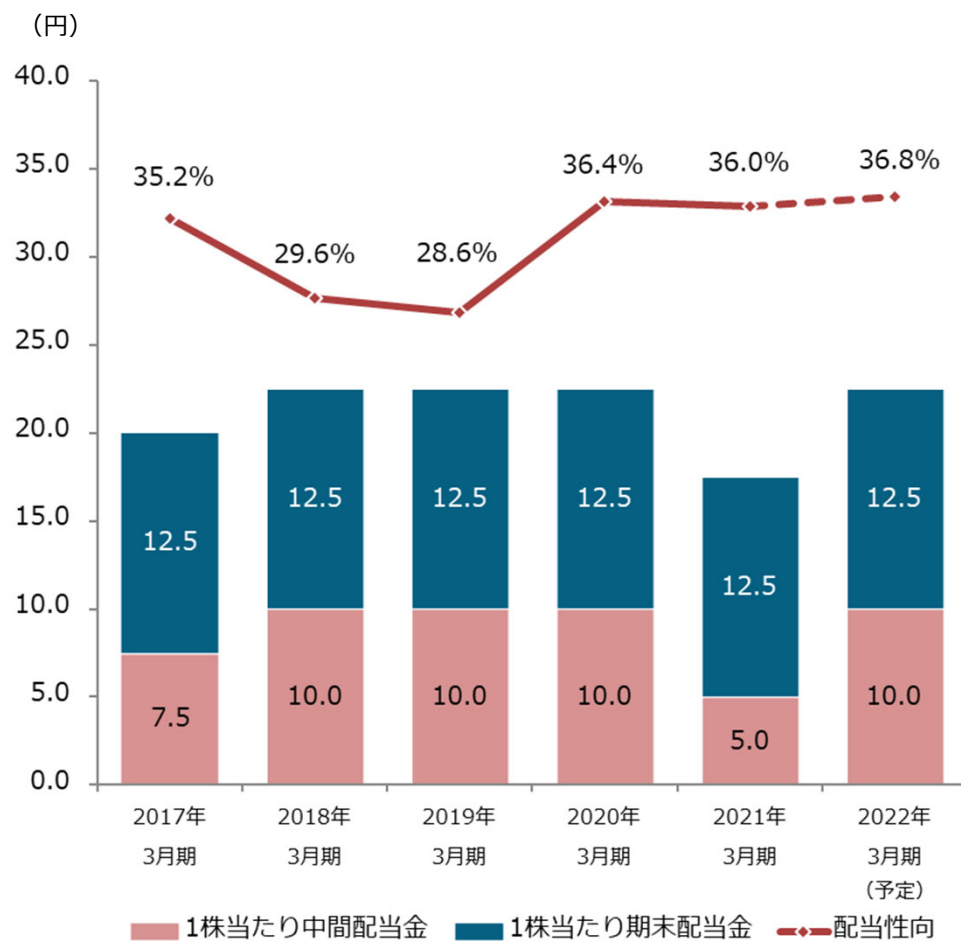
※2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

- 生産活動の再開が進み、業績は予想を超えて回復した。今後も新型コロナウイルスの感染再拡大、半導体や部材不足による生産活動全般への影響、業界においては特定の製品分野で価格競争の動きがあること等、不透明な要因が多いが、工具需要は底堅く推移すると予想される。
- 売上高は前期比17.5%増加の9,520百万円、営業利益は同42.1%増加の2,150百万円、経常利益は同27.9%増加の2,190百万円とした。
- 設備投資は製品品質や生産効率の向上を図る機械設備の継続的な導入が中心。2021年3月期は減産により絞り気味としたが、2022年3月期はほぼ例年の水準となる見込み。
- 1株当たり配当金は、期末配当金12.5円を予定。年間では中間配当金10円を含め、前期の17.5円から22.5円へ増配。

下期業績予想と進捗率

(単位：百万円)	2022年3月期								
	下期					通期			
	下期予想	売上比	3Q実績	売上比	下期進捗率	通期予想	売上比	3Q累計実績	進捗率
売上高	4,698	—	2,458	—	52.3%	9,520	—	7,279	76.5%
前年同期比	+5.2%		+11.8%			+17.5%		+24.8%	
営業利益	1,035	22.0%	559	22.7%	54.0%	2,150	22.6%	1,673	77.8%
前年同期比	-6.6%		+5.7%			+42.1%		+79.4%	
経常利益	1,059	22.5%	576	23.5%	54.4%	2,190	23.0%	1,707	78.0%
前年同期比	-16.5%		-15.1%			+27.9%		+52.0%	
当期純利益	759	16.2%	410	16.7%	54.1%	1,530	16.1%	1,181	77.2%
前年同期比	-19.2%		-15.4%			+26.0%		+55.4%	

配当予想（株主還元について）



※2017年1月1日、2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

安定性・継続性に配慮しつつ

業績動向や配当性向等を総合的に勘案

- 2021年3月期の1株当たり年間配当金は17.5円。
中間配当5円、期末配当12.5円
配当性向は36.0%
※2021年4月1日付で普通株式1株を2株に分割した影響を考慮しています。
- 2022年3月期の1株当たり年間配当金は22.5円を予定。
中間配当10円、期末配当12.5円
業績予想に対する配当性向は36.8%
- 株主優待
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された、1単元（100株）以上を保有する株主様を対象にオリジナルクオカード1,000円分を贈呈。

なお、保有年数3年以上の株主様には1,000円分を追加で贈呈。

參考資料

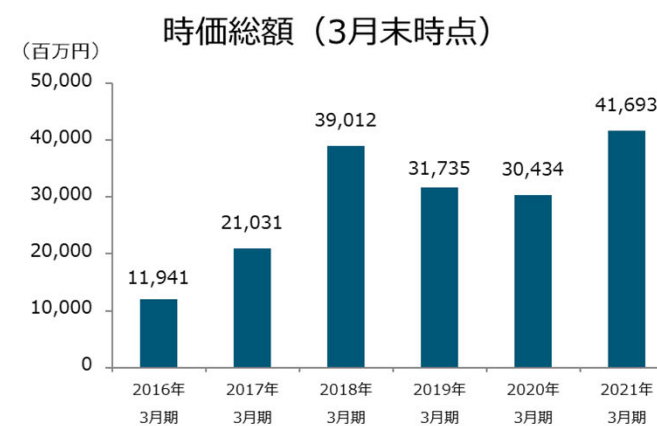
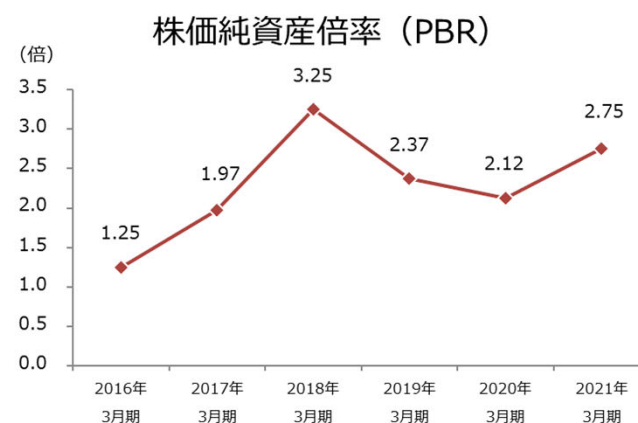
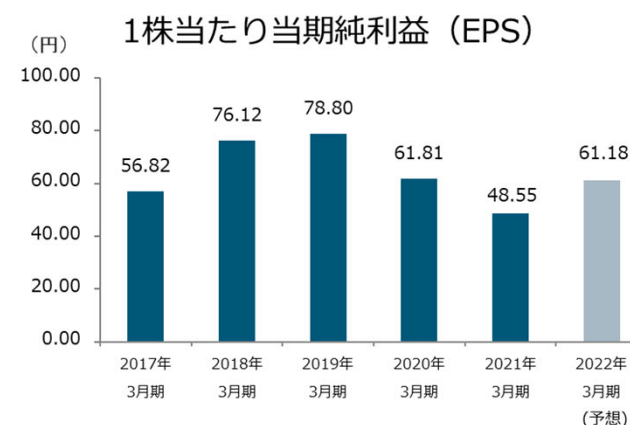
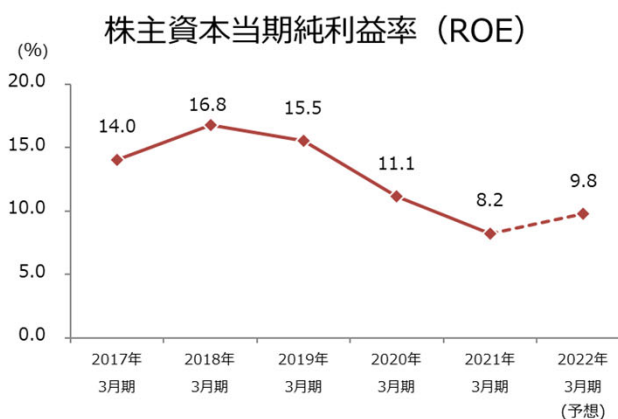
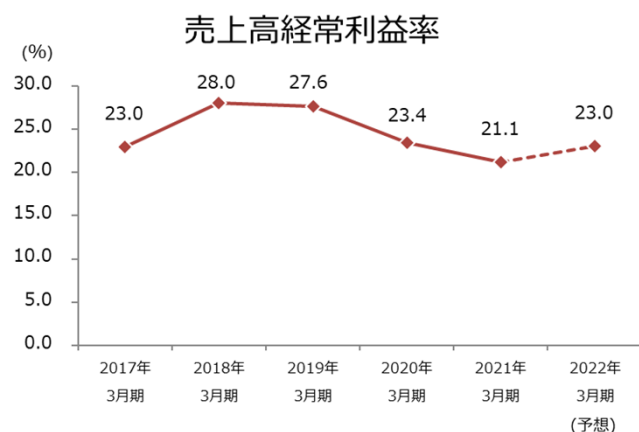


過去5年間の業績と主要データ推移

(単位：百万円)	2017年3月期 通期実績	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 通期実績	2021年3月期 通期実績
売上高	8,825	9,767	10,476	9,531	8,100
営業利益	2,013	2,695	2,879	2,219	1,512
営業利益率	22.8%	27.6%	27.5%	23.3%	18.7%
経常利益	2,026	2,733	2,894	2,231	1,712
経常利益率	23.0%	28.0%	27.6%	23.4%	21.1%
当期純利益	1,420	1,903	1,970	1,545	1,214
当期純利益率	16.1%	19.5%	18.8%	16.2%	15.0%
有利子負債額	—	—	—	—	—
純資産額	10,666	12,002	13,461	14,498	15,326
総資産額	12,517	14,467	15,381	16,017	16,936
自己資本比率	85.2%	83.0%	87.1%	89.7%	89.4%
設備投資額	774	663	1,268	1,755	462
減価償却費	632	625	629	698	707
1株当たり配当金（円）	20.00	22.50	22.50	22.50	17.50
従業員数（人）	322	338	343	338	339

※2017年1月1日、2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

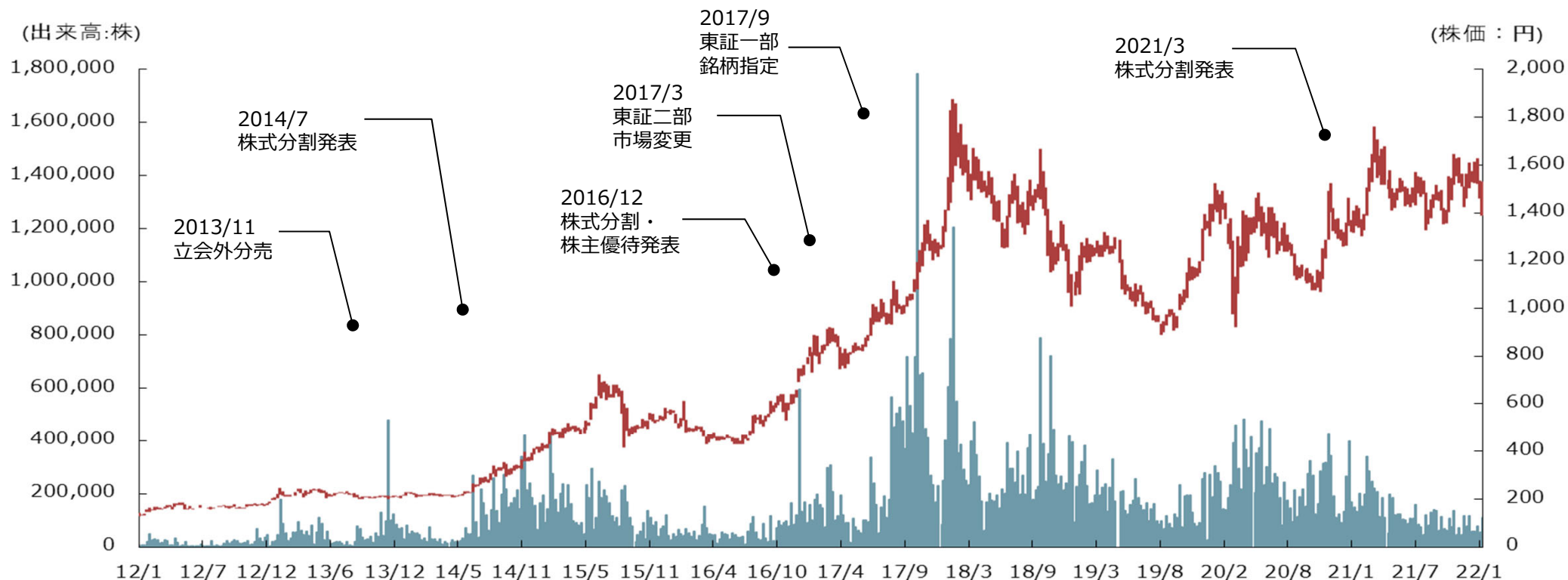
投資指標



※ 2017年1月1日、2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

株価推移とバリュエーション

週足ベース株価推移（2012年1月～2022年1月）



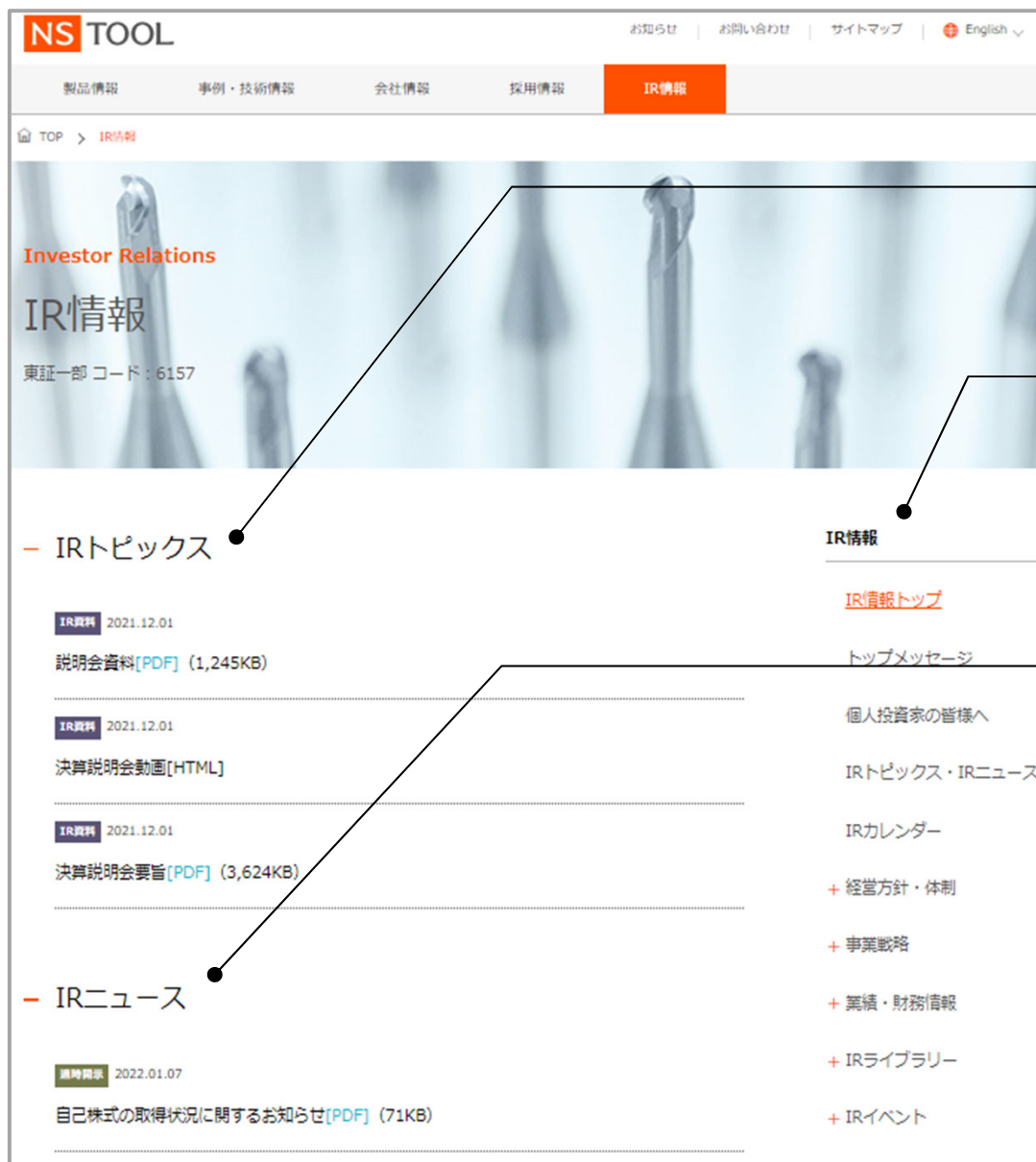
※ 2014年10月1日、2017年1月1日、2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

バリュエーション（2022年1月27日現在）

売買単位	100株
時価総額	336億円
ROE (21/3期実績)	8.2%

単元株価格	13万4,500円
PER (22/3期予想)	21.98倍
PBR (21/3期実績)	2.22倍

IR情報サイトのご案内



IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています。

メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます。

現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります。

IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます。

URL <https://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください。

お問い合わせ

日進工具株式会社

取締役	経営企画室長兼管理部長	戸田	覚
管理部	経理課長	今関	弘毅
管理部	I R 担当	松尾	友紀子

TEL : 03-6423-1135
FAX : 03-6423-1186
E-mail : ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。